

コレンジャーの森づくり

9月のコレンジャーの活動では森の地図づくりを行いました。「子どもが作る森の地図」として想像するのは、動植物や森の全体像を思い思いに描いた地図だと思えます。しかし、コレンジャーの地図は一味違います。木が植わっている位置を正確に印した森の地図なんです。

地図を作る方法は、二等辺三角形をコンパスで作るのに似ています。基準となる木を2本(a、b)決めて、測りたい木(c)までの距離を基準木からそれぞれ測ります。その距離を、A4の紙上に落とせる縮尺にして、コンパスで弧を描きます。この2つの弧の接点が木の位置です。コレン

ジャーの表情には、最初「？」が出ていましたが、要領を掴むとチームワークを発揮して地図を完成させることができました。森の地図を作り、森を上から見たコレンジャーから「木が密集している所としていない所が分かる」「森や生き物のために木を切ったり、少ない所には植えた方がいい」といった声が上がりました。

11月は、森の地図とコレンジャーの声を基に間伐を行いました。子どもウエストの2倍はありそうな木に、レンジャーの指示の下、ノコギリを入れていきます。倒す時は、みんなで掛け声をかけながらロープを引つ張りました。木が倒れていく光景にドーン！という物凄い音が森に響きわたり心も震えた瞬間でした。その後、倒した木の全長を測り枝払いと玉切りを行い、年輪を数えた結果、60年生の全長22・57のヒノキだということが分かり

ました。

体験の後、人工林は人間が木を利用するために管理する森で、木を利用しないと森が荒れること、そして、木を利用してできてくるものについて、どんなものがあるか話し合った後、ほぼ全てのものが木以外の素材でも作られていることを知り、もつと木を利用する方法を考えていこうと話しました。

自らの手で森の木を切り倒した衝撃が、コレンジャーとして自分ができること、将来したいことを見つげるための一つのきっかけになることを願っています。

加瀬澤恭子



ノコギリで木を切るコレンジャー